

病防第50号
平成23年 7月29日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

早植水稻のいもち病の発生状況（技術情報第8号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

本年は早植水稻における葉いもちの発生が多く、穂いもちに進展する可能性があります。ほ場の発生状況を確認し、発生が多い場合は防除しましょう。

1 発生状況

- ア 早期・早植水稻における7月の巡回調査では、葉いもちの発病株率13.8%（平年7.0%）で平年比やや多の発生であり（図1）、発生が多いほ場（発病株率80～100%）も見られた。
- イ 矢部試験地（山都町）の無防除田における7月上～中旬の葉いもち病斑数は28.9個/株（昨年0.34個/株、一昨年10.5個/株）と、昨年・一昨年に比べ多い。
- ウ 一部の普及・振興課では、中山間地の葉いもち常発地を中心に多発ほ場を確認している。
- エ 早植水稻の生育は、6月の日照不足（平年の60%弱）によりやや軟弱徒長気味のため、本病が発生しやすい条件となっている。
- オ 予想される向こう1ヶ月の天候は、気温・降水量ともに平年並の予想である。

2 防除対策

- ア 穂いもちは発生後の防除が困難である。葉いもちの発生状況を確認し、発生が多い場合は、予防防除を行う。
- イ 粉剤や水和剤は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。
- ウ 粒剤は出穂前に散布するが、薬剤の種類によって使用時期が異なるので、確認して使用する。

※なお、本文はホームページ「<http://www.jpjn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県病虫害防除所

（熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病虫害研究室 予察指導係）

担当：東

TEL 096-248-6490

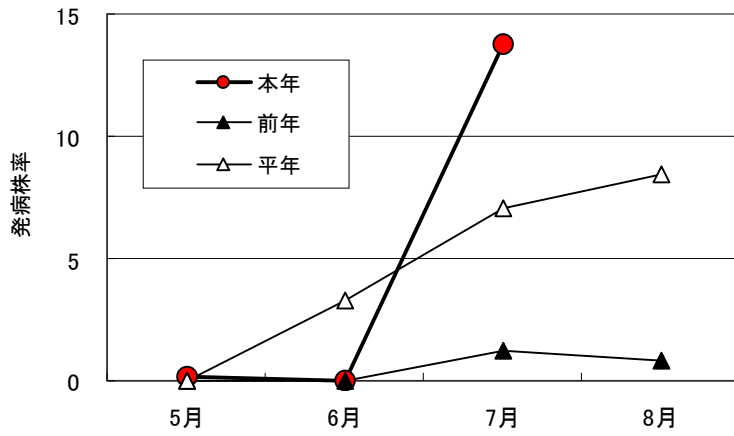


図1 早期・早植水稻における葉いもち発病株率の推移